

## 県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!



■表紙写真 題名：積木遊び 撮影場所：静岡市科学館 撮影者：大塚 美代子氏（静岡市）

## INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧ください。URL：<http://www.morito hito.jp>

- 2 首長は語る (No.44)  
せせらぎと緑と元気あふれる協働のまち・三島  
～環境と食を大切に～
- 3 支部だより①  
山をマネジメント！
- 4 支部だより②  
自然と人の優しさに会えるまち、菊川
- 5 県庁だより①  
森の力再生事業の継続と森林(もり)づくり県民税の延長について
- 6 県庁だより②  
県民参加による森づくりの推進  
～「森づくり県民大作戦」のリニューアル及び「しずおか森づくり貢献認定制度」の開始～
- 7 森林・林業研究センターだより (No.81)  
菌類を使ったスギ花粉飛散防止方法の開発
- 8 本部情報  
山林協会の新規就労支援について
- 8 事務局だより



# 首はる 長語

● No.44

## せせらぎと緑と元気あふれる協働のまち・三島 ～環境と食を大切に～

三島市長 豊岡 武士



### はじめに

三島市にはまちづくり関係の団体がたくさんあります。そんなボランティア団体の会合に毎晩顔を出し、三島のことをこよなく愛する三島市長にお話を伺いました。

### 三島市の自慢

古くは伊豆の国の国府が置かれ、三嶋大社の門前町、東海道の宿場町として賑わいをみせた、歴史ある町です。自然環境も豊かで、富士山からの湧水が、源兵衛川や桜川となって中心市街地を幾筋にも流れています。せせらぎが生まれ、“湧き水のある水の都”として知られてきました。

伊豆・箱根・富士への玄関口という三島市は、「ハブ」の機能をもっており、年間618万人もの来訪者が訪れます。みなさんが口々に言うのは、「まちがきれい」ということ。ゴミがひとつも落ちていないことに驚かれます。人口11万人の美しく、暮らしやすい三島市は、人口減少が少ないことも自慢のひとつです。



▲源兵衛川

### 市民との協働

三島市は市民の活動が大変活発です。代表的な「グランドワーク三島」は「水の都・三島」の原風景を再生し、子どもたちに受け継いでいくことを目指して精力的に活動しています。

通りを歩くと、フラワーバスケットが目に入りますが、こちらは「花サポーター三島」が植付けや花がら摘みなどの管理をしてくれています。去年は、市民との協働による「ガーデンシティみしま」の取り組みが高く評価され、「第二十五回全国花のまちづくりコンクール」において、最高賞となる「国土交通大臣賞」を受賞しました。

### 箱根西麓三島野菜とみしまコロッケ

箱根西麓の火山灰に覆われた大地は、野菜作りには大変良い土壌です。特に馬鈴薯、ニンジン、大根などの根菜類の栽培にとっても優れており、箱根や東京のレストランでも多く使われています。そして、この箱根西麓でとれた三島馬鈴薯でつくった『みしまコロッケ』は、三島市を代表するご当地グルメとして全国的に知られています。最近では、テレビドラマ「ごめんね青春」で取り上げられたことがきっかけとなり、中国でも人気になっています。

### 三島市の森林・林業

三島市域の約4割2,400haが森林に覆われ、その約7割はヒノキが主体の人工林です。三島市では森林所有者へ森の力再生事業の実施を積極的に呼びかけ、林業事業体を斡旋しています。その結果、本年度は約10haの荒廃森林の整備や約2haの放置竹林の整備を実施することができました。

森林整備を進めるためには「森林経

営計画」を策定していく必要があります。当市では「森林経営計画」を立案できる意欲と能力がある林業事業者を支援し、既に計画がある箱根山組合直轄林182haに加え、来年度には新たに2件の経営計画の策定を予定し、順次面積を増やそうと考えています。

さらに平成27年度から市長が塾長となり「箱根西麓森林塾」を開始し、能力の高い人材の育成を始めたことから今後の活躍が期待されます。

また、林業と観光を結びつけたノルディックウォークのコースを箱根西麓の森林内に設けましたので、多くの人に森林に親しんでもらいたいと考えています。

### 山中城跡公園

北条氏によって築城され、小田原城の支城として位置づけられる山中城跡は、今でも当時の面影を色濃く伝えています。散策コースにもなっており、城跡からは雄大な富士山を望め、三島市の町並みも見下ろすことができます。

### 日本一の大吊橋、三島スカイウォーク

平成27年12月14日三島市に新名所「三島スカイウォーク」が誕生しました。入口から真っ先に目に飛び込んでくるのは雄大な富士山です。400mという日本最長の大吊橋からの景色は素晴らしく、富士山はもちろん、美しい駿河湾も望むことができます。歩行者専用の大吊橋は、オープン以来、多くの来訪者で賑わい、年間180万人の集客を見込んでいます。



▲スカイウォーク

### おわりに

獣医の免許をお持ちという三島市長ですが、現在では、ライフワークも趣味も「三島をいいまちにすること」と目を輝かせて、お話になりました。今夜も市民とまちづくりについて話し合うため、会合に出かけられるそうです。



# 支部だより①

## 山をマネジメント！

～平成26年度ビジネス林業促進事業を担当して～

清水森林組合 天野 彩太郎

清水森林組合からは「ビジネス林業促進事業」の経験について報告していただきました。

### はじめに

私は平成23年度に採用され、様々な現場作業や管理業務を経験している最中です。平成26年度に当組合は今後の事業展開に必要な素材生産計画の作成、コスト管理と現場監理の能力を養うため、県のビジネス林業促進事業に取り組むことを決めました。この事業の担当者にまだ経験の浅い私が指名され、講師の先生や先輩の指導のもと試行錯誤しながら実行しましたので、その経験を報告します。

### 事業概要

本事業では、事業体に講師が派遣され、生産計画の作成から生産システム構築、コスト管理、作業道開設、伐採・搬出技術までの一連の指導を受けます。現場完了後に成果報告会を職員全員が参加して実施し、生産性や技術面の変化などを話し合い、今後の素材生産体制の強化に繋げるものです。

### 研修開始

本事業は、興津川上流域に位置し当組合が管理する清水森林公園内で行いました。研修地付近に杉尾山の展望台があり、多くの利用者の目に留まる場所です。林内は劣性木等が目立ち灌木も繁茂して見通しの悪い状況でした。

平成26年9月11日の個別指導1回目は、当組合の内部体制と施業着手までの流れを職員全員が共有しました。翌日の2回目は研修地を視察し、講師から景観林として人目につくことも考慮し、丁寧な仕上がりが必要であると指導を受けました。

3回目には課題として日報・機械管理日誌・工程表の作成が求められ、掃除法・作業道設計・選木を行うことになりました。

中でも選木は悩む所が多く、立木を見上げ、早々と選木テープを巻きつける先輩職員の隣で、私は見上げるばかりで中々テープを巻きつける判断に至りません。もとより造材の知識と市場動向の把握が未熟でしたが、何より困惑した要因は、選木＝収入という事実です。残存木を重視

すれば、劣性木を多く伐りたい。しかし組合も作業経費もやりくりする必要がある。自分の選木した木がお金に換金されることの重みを改めて感じました。

### 途中経過

4回目は、施業途中の生産性を検証しました。現場のデータを検証すると、目標の出材量を大幅に下回る結果となりました。原因は、伐倒から搬出までの効率を考え作業道開設をしましたが、作業道を効果的に使う作業システムが作業班にうまく伝達されなかったことです。

工程管理は私の役目であり、頻繁に現場に通い指示をしましたが、現場データの分析を根拠としたものでは無い為、自分にも危機感が湧かず、造材や施業方法に関する作業班からの疑問に対して的確な答えが出来ず、お互い疑問が残るまま施業が進行したことです。

そのため目標とする生産性と施業方法を変更することとなり、作業班の方々にもご迷惑を掛けてしまいました。中間データが示す生産性等は残酷でした。作業日報や機械管理日誌の数字からももう少し早く読み取ることが出来ていたら…と後悔の念が堪えません。

### 結果と業務への反映

平成27年2月13日、5回目の指導は成果報告会の場でした。実績データから生産性の検証を行いました。目標の生産性には届かず、課題が多く残る結果となりました。

本事業はほろ苦い経験となりましたが、組合にとって改良すべき課題や今後の目標が把握できたことが大きな成果と言えます。今年度はこの経験を活かし、一日も早く素材生産の現場を一括管理でき、生産性も向上できるよう日々の業務に取り組んでいるところです。



▲間伐材の搬出作業の指導



▲現地研修・作業班への指導



# 支部だより②

## 自然と人の優しさに会えるまち、 菊川

菊川市 農林課

菊川市からは「住みやすく、子育てしやすいまち菊川」の魅力を紹介していただきました。

菊川市は、静岡県の中西部、静岡市と浜松市のほぼ中間に位置し、みどり豊かな自然環境と都市機能が共存するまちです。

南アルプスの支脈、粟ヶ岳山麓を水源とする一級河川「菊川」の中流域に広がる菊川市。市内各所には縄文・弥生時代からの遺跡をはじめ、東には、明治初頭の大規模開拓により形作られた「日本一の大茶園」牧之原台地が広がり、「お茶のまち 菊川」としても広く知られています。

JR東海道本線菊川駅、東名高速道路菊川ICなどを有し、新幹線掛川駅に近接するなど交通の要衝となっています。また、「富士山静岡空港」の開港や御前崎港の整備により、交通の結節点としてさらに利便性が高まり、将来に向け大きく発展することが期待されています。

### ひつるぎさん 火剣山

標高282m、菊川市の北端にあり、駐車場から上ること約15分、山頂の東の峰には遠州七坊の一つ、火剣坊

大権現を祀り、西の峰には展望台があります。展望台からは眼下に大茶園をのぞみ、南に遠州灘、西は浜松市街、北は南アルプスの支脈粟ヶ岳、東は牧之原台地と、360度のパノラマが広がります。尾根を北にたどれば、遠州七不思議「夜泣き石」伝説の「小夜の中山」にいたります。

火剣山参道入り口を左にくだと、バンガローやキャンプサイトなどが整備され、約200名が宿泊できるキャンプ場があり、夜には満天の星空が降り注ぎます。展望台からの景色は絶景です。

古くから山腹が急なことで知られる火剣山周辺は、タラの芽やワラビ、ゼンマイ、フキなどの山菜が豊富で、多くの人々が山に入ります。4月に行われる「わらび祭り」では、溪をわたる早春の風の中お花見を楽しむことができます。

また、特別天然記念物のカモシカが姿を見ることがあり、運が良ければ出会うことができるかもしれません。



▲火剣山

### 西富田ほたるの里

火剣山から南西におよそ1km、「すみが谷」と呼ばれる山間の沢すじに沿ったところにゲンジボタルが生息しています。6月上旬から中旬にかけて、闇夜に舞う幻想的な青白い光跡とふるさとの自然を楽しむことができます。6月上旬に開催される「富田ほたるを見る会」では、バザーも開かれ多くの人で賑わいます。



▲西富田ほたるの里

### 丹野池公園

昭和32年に完成した農業用ため池です。今では溪谷にかかる吊り橋や東屋、ウッドデッキが整備され、御前崎遠州灘県立自然公園の一部に指定されています。



▲丹野池公園

池を取り囲む循環道路には桜が植えられており、春には花見スポットとしてにぎわいを見せます。

また、ラジコンヨットを楽しむ条件がそろっており、週末には各地から愛好者が集まります。丹野池RCヨット協会は会員数40名を超え、市長杯丹野池RCヨット競技会などを開催しています。ラジコンヨットの全日本選手権大会開催地の一つにもなっています。白い帆が風を受けて水面を滑っていく姿は、池の澄んだ水面、周囲の緑あふれる茶畑とのコントラストと相まって、優雅でのどかな雰囲気を漂わせます。



# 県庁 だより ①

## 森の力再生事業の継続と森林(もり)づくり県民税の延長について

交通基盤部 森林局 森林計画課

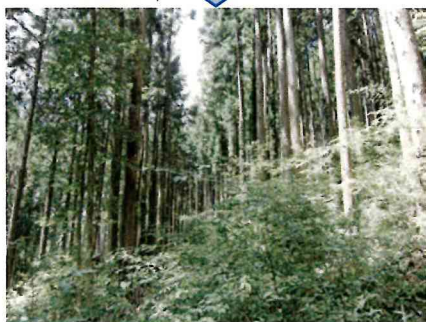
森林計画課からは、県民の関心の高い森の力再生事業延長について紹介をいただきました。

### 現事業の成果

県は、県民の皆様から「森林(もり)づくり県民税」を負担していただき、平成18年度から10年間の計画で、「森の力再生事業」により、荒廃森林の再生に取り組んできました。計画の最終年度となる今年度末には、当初の整備目標である12,300haを達成できる見込みであり、整備箇所では、山地災害防止や水源涵養機能などの「森の力」が着実に回復しています。



▲施工直後 水平列状間伐により日光を地面に当てる



▲施工6年後 下層植生に繁茂し「森の力」が回復した。

### 新たに荒廃が進行

一方で、森林所有者による整備が困難な森林では、この10年間に新たに荒廃が進行し、シカによる食害がこれを助長しています。近年、集中豪雨が頻発していることから、こう

した森林では山地災害の発生リスクが高まり、緊急な整備が求められています。

### 事業継続を決定

このため、静岡県市長会、静岡県町村会を始めとした各方面からの要望や、市町の協力により多くの県民の皆様に参加していただいたタウンミーティング(昨年4月から6月にかけて県内27会場で実施)等でもいただいた意見をふまえ、平成28年度以降も「森の力再生事業」を継続することとしました。

### 次期事業の概要(案)

整備の対象となるのは、この10年間に新たに荒廃が進行した森林です。既に下草が消失した森林に加え、今後消失が見込まれる森林も計画対象に加え、緊急に整備すべき荒廃森林の解消を図ります。

具体的には、手入れ不足により下草が消失したり、消失の恐れのある人工林の間伐、台風や大雪により被害を受けた人工林の倒木の片付け、放置された竹林の伐採や広葉樹林の間伐など、今後10年間で11,200haの整備を計画しています。



▲手入れ不足等により荒廃した人工林の強度間伐



▲台風や大雪により倒木被害を受けた人工林の倒木の片付け



▲放置された竹林の伐採や広葉樹林の間伐

### 「森林(もり)づくり県民税」の延長

この事業の財源として、「森林(もり)づくり県民税」を、税額等は変えずに課税期間を延長することとしました。

#### 森林(もり)づくり県民税

税額	個人	年額 400 円
	法人	法人県民税均等割額の 5 %
課税期間	5年間(※)	平成28年度～平成32年度
※なお、5年後に事業の実施状況や効果等を踏まえて、税率や課税期間を再検討することとしています。		

今後も、「森の力再生事業」を通じ、荒廃森林の再生に努めて参りますので、引き続き、御理解と御協力をお願いします。



# 県庁だより②

## 県民参加による森づくりの推進

～「森づくり県民大作戦」のリニューアル及び「しずおか森づくり貢献認定制度」の開始～

くらし・環境部 環境局 環境ふれあい課

環境ふれあい課からは、森づくり団体の自主的な活動の推進について紹介していただきました。

### はじめに

県は、県民の森づくりへの理解と参加の促進を図るため、森づくり団体等との協働により森づくり活動を行う県民参加型行事として、平成12年度から「森づくり県民大作戦」を実施しています。開始から15年が経過した今では、行政主導から、森づくり団体自ら参加者を募集したり、地元自治会や小学校へ参加の呼びかけを行うなど、森づくり団体の自主的な開催が中心となっています。



▲森林ガイドウォーク

### 森づくり県民大作戦のリニューアル

これまで以上に森づくり団体の自主的な活動を推進し、県民が森づくり活動に参加する機会を増やすため、これまで春と秋の各3ヶ月間のみ実施していた「森づくり県民大作戦」を、平成27年度からは通年開催に変更しました。なお、春と秋の各3ヶ月間については、森づくり県民大作戦の「重点期間」と位置づけました。

通年開催に変更したことで、全体の行事数が約6割増加し、県民の皆様が個々の目的に応じて森林に親しんだり、森づくり活動に汗を流したり、様々なかたちで森づくりに参加

していただくことができるようになりました。

また、今年度からは行事内容をすべて県のホームページに掲載し、行事の追加や内容の変更があった場合、随時情報を更新し、常に最新の情報を提供出来るようになりました。



▲竹を使ったバウムクーヘン作り

### しずおか森づくり貢献認定制度

県は、森づくり団体等による森づくりを一層推進するため、森づくり団体等が行う活動タイプに応じて貢献証を交付する「しずおか森づくり貢献認定制度」を平成26年度から開始しました。

平成26年度は48団体の活動を認定し、貢献証を交付しました。これらの団体は、定期的に森づくり活動を実施し、「森づくり県民大作戦」として行事を開催している団体で、今年度も活発な活動に取り組んでいただいています。

また、この認定を受けた団体は、苗木や鎌等の森づくり活動に必要な資材費等を助成する公益社団法人静岡県緑化推進協会の「森づくりグループ活動支援推進事業」に応募出来るというメリットがあります。

今後も県は、公益社団法人静岡県

緑化推進協会と連携し、森づくり団体の皆様の活動を支援していきます。



▲竹林整備の様子

### おわりに

近年は、森づくり団体同士が連携した行事の開催や、森づくりとは縁のなかった団体や企業へ参加を呼びかける団体が増えてきました。これにより、より幅広い県民の皆様の参加が得られるようになってきています。

平成28年度も「森づくり県民大作戦」を通年開催とし、現在森づくり団体の皆様からの行事の参加申出を受け付けています。また、4月から開催される行事を環境ふれあい課のHPで公開していますので、ぜひ御覧いただき、県民参加の森づくりへの積極的な参加をお願いします。



▲地元住民との協働による植樹祭



### 菌類を使ったスギ花粉飛散防止方法の開発

森林育成科 山田 晋也

菌類を使ったスギ花粉飛散防止方法の実用化に向けた取組について紹介していただきました。

林野庁は森林・林業面からの花粉症対策として、少花粉スギ品種等の開発・普及や人工林の広葉樹林化等を通じて「花粉の少ない森林への転換事業」に取り組んでいます。しかし、花粉発生源のスギを伐採して少花粉スギを植林し、花粉の少ない森林を育成するには膨大な年月と労力を必要とします。このような中、福島県西会津町のスギ林において、スギの雄花だけに特異的に寄生する子の菌類が発見され、シドウイア・ジャポニカと同定されました。



▲シドウイア・ジャポニカに感染し枯死した雄花

その後、国立研究開発法人森林総合研究所内のスギ実験林において、本菌の孢子懸濁液に大豆油等を混合した乳剤をスギ雄花にスプレーで1回散布することによって、短期間(2~3ヶ月)で80%以上の成熟雄花を枯死させ、花粉の飛散を抑えることに成功しました。また、これまでの研究によって、本菌はスギの雄花だけを殺生し、スギ枝葉や他の動植物にはまったく影響を与えないことが確認されています。さらに、本菌類は過去にスギ林に被害を与えた記録もないことから、本菌類をスギ花粉飛散防止液として活用することが期待されています。即効性のある本菌類を首都圏等への花粉飛散発生源と推定されるスギ林に散布す

ることによって、スギ林を伐採することなく、短期間で花粉の飛散を防止することが可能となります。

#### 実用化に向けた取組

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業において「菌類を活用したスギ花粉飛散防止液の高度化と実用的な施用技術の開発」という課題が平成26年度から3年間の計画でスタートしました。この課題は国立研究開発法人森林総合研究所を中心に、民間企業、富山県森林研究所と当センターで共同体を作り、本菌を使ったスギ花粉飛散防止液の実用化を図るものです。

本課題の技術目標は次の2つです。  
①散布液の冷蔵保存や粉末化の条件を明らかにし、薬効及び保存性に優れた防止剤を開発する。  
②地上及び空中散布によって、80%以上の成熟雄花を枯死させる散布施用技術を開発する。これらの目標を達成させ散布方法のマニュアルを作成します。本課題の終了後、遅くとも2022年までには本菌を微生物農薬として登録を行い早急の実用化を目指しています。

#### 地上散布法の開発

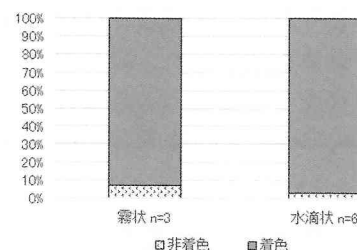
当センターの担当課題は「スギ花粉飛散防止液の施用技術の開発」の一部です。この課題では、地上散布方法の開発、空中散布方法の開発などを実施します。当センターでは、無人ヘリコプターでは散布できない人家に近いスギを対象とした地上散布法を開発しています。単木から公園、学校林や社寺林等の比較的小規模に植栽されたスギに対しては、動力噴霧器を用

いた人力による地上からの散布が効率的です。これまでの一連の研究によって、防止液が雄花に付着しさえすれば雄花は容易に枯死することから、いかに、確実に付着させるかを検討しています。具体的には、単木から数本のスギ林に対し、「散布量及び散布液の形状(霧状か水滴状かなど)」に関して実証試験を行い、散布効果として80%以上の雄花を枯死させる実用可能な地上散布法を開発することです。

#### 地上散布の結果

平成26年度は、予備試験として散布量決定のため手動式噴霧器による散布試験を実施しました。成熟雄花が形成されるのは10月頃なので、その後の11月に散布液50ml/枝と100ml/枝を散布しました。その結果、いずれの散布量でも雄花花序数(雄花の房の枝数)が100本未満の枝であれば、80%近い枯死率を示しましたが、雄花花序数100本以上の枝では感染率は50%台となりました。原因として雄花量が多いと散布液が物理的に付着しなくなることが考えられました。

平成27年度は、確実に散布液を付着させるための実証試験を動力噴霧器と染色液を用いて実施しました。その結果、使用した動力噴霧器と超遠距離鉄砲ノズルであれば、雄花花序数100本以上の枝に対して霧状でも水滴状の散布でも9割以上の雄花へ染色液を付着させることができ、目標達成の見込みがつかしました。



▲動力噴霧器を用いた染色液散布試験

平成28年度は当センター内にあるスギ単木での実証試験を実施します。8割以上の雄花を枯死させる散布条件を決定し、決定した条件をもとに散布マニュアルを作成し当センターのホームページ等で本技術の紹介をする予定です。



# 本部情報

## 山林協会の新規就労支援について

### 林業の追い風

昨今、国・県は国産材増産と需要拡大に力を入れ、全国各地で草薙体育館のように国産材を使った公共建築が増加し、また東京オリンピックの会場整備に国産材を使う動きなどが活発化するなど国産材に追い風が吹き始めました。

林業界にとって喜ばしいことですが、一方で木材増産を担う林業労働者不足の状況が全国各地で発生しています。

### 映画ウッドジョブの影響

このような林業界を取り巻く状況の変化についてTVや新聞での特集が増え、林業に関心を持つ若い人も増えてきました。

さらに平成24年には林業を題材にした邦画「ウッドジョブ」が公開されヒットし、特に映画の主人公が林業の世界に飛び込むきっかけとなる研修が「緑の雇用研修」をモデルにしたことがネット等で広く知られ、全国的に緑の雇用研修へ参加する若者が増えています。

### 山林協会の取組

このような中、当協会では国の緑の雇用事業を活用した「森林整備の担い手育成」を業務の大きな柱に据え、県内の素材生産事業者への就業

を考えている人の相談、就業支援講習会等や就業後の支援に取り組んでいるところです。

このうち就業相談として今年度は静岡市内で「しずおか森林の仕事ガイダンス」を2回実施し、また全国森林組合連合会が東京で実施する「森林の仕事ミニガイダンス」と「森林の仕事ガイダンス」へも相談ブース出展を行いました。



▲しずおか森林の仕事ガイダンス(静岡市 もくせい会館)



▲森林の仕事ガイダンス(東京国際フォーラム)

### 事業実績

これらのガイダンスで就職相談を受けた人は合計149人となっています。この他にも協会への電話相談はH27.7～28.1末で145件、また就業支援講習会の参加者14人、森林の仕事体験会の参加者6人あります。全体では三百数十人を相手に県内就職の相談を行うことになります。これらの就業支援により例年30人近くが実際に就業します。また、そのうち1/3近くが県外からの移住者です。

ガイダンスでは、来場者はホール

内の出展事業者のブースで面談します。来場者は真剣な面持ちで事業者職員と業務内容や待遇などについて質疑応答を繰り返します。来場者の中には幾つかの事業者と面談し就職先候補を決め、その場で会社訪問の日程を決める来場者もいます。来場者は他業界からの転職者が多いようです。事業者も即戦力を希望することが多いため、経験、資格、適性などを確かめているようでした。

後日、本人や事業者から「〇社に就職しました」「来場者を採用したよ」と連絡が来ると協会担当者はほっとします。

山林協会の就業相談等の状況

しずおか森林の仕事ガイダンス									
第1回	H27.11.15 開催		主催: 山林協会		静岡市「もくせい会館」				
在住地	伊豆	東部	中部	西部	県外	合計	男性	女性	平均年齢
人数	4	6	30	16	12	69	63	6	37歳
第2回	H28.1.17 開催		主催: 山林協会		静岡市「もくせい会館」				
人数	4	5	12	9	6	36	34	2	33歳
森林の仕事ミニガイダンス H27.11.21 開催 主催 全国森林組合連合会									
在住地	千葉	埼玉	不明	合計					
人数	2	2	2	10					
森林の仕事ガイダンス H28.1.30 開催 主催 全国森林組合連合会									
在住地	東京	神奈川	千葉	埼玉	京都	合計			
人数	12	15	2	4	1	34			
森林の仕事体験会 H27.10.18、10.19 開催 主催 山林協会 富士宮市内									
在住地	県内	県外	合計						
人数	3	3	6						
就業支援講習会 H27. 10.26～11.20 開催 主催 山林協会 袋井市内等									
在住地	県内	県外	合計						
人数	9	5	14						



▲就業支援講習(伐採の基本技術研修)



▲就業支援講習(小型機械の運転研修)

## 事務局だより

中華圏国家では春節(旧正月)前後の1週間が春節連休となり、この春節に合わせ帰郷し家族が一堂に集まる風習があるそうです。今年、中国ではこの時期前後に延べ29億人が公共交通機関を利用したとのことでまるで民族大移動のようです。また、海外に出かける人も急増して静岡空

港の利用者も増え、県内の商業地での爆買いや富士山観光などもすっかり有名になりました。

今年のニュースでは、リピーターの観光客が増え、団体観光から個人や少人数で体験型観光を楽しむ傾向がでているそうです。本県でも富士山が人気ですが眺めてもらうだけでなく、これからは彼の地に無いような数百年間も育ててきたスギやヒノ

キの美林の中の散策、サイクリングや中山間地の伝統文化を体験する観光ができそうな気がしますが、皆さんいかがでしょうか?

公益社団法人  
「森と人」 静岡県山林協会  
編集・発行 静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F  
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489